





## 海外における男女別学の動向

海外では、男女別学(男女別クラスも含む)の学習効果が見られた研究が複数発表されています。

- 公立高校を対象に調査した結果、女子生徒の場合、女子校の方が成績が良く、より高度な数学と物理の授業を選択した (2002年/英国/英國国立教育研究財団)
- 男女の学力差を埋めつつ、それぞれの能力を伸ばすには男女別学の教育が最適である (2005年/英国/ケンブリッジ大学)

3年ぶりの球技会を開催

学習院女子中等科・女子高等学校



イギリスでは、成績上位校に男女別学の学校が多く含まれる



韓国では中高は男女別学が多い。男女ともに在籍する学校であっても、クラス編成が男女別であることも



米国では公立校で男女別学が増加! 2002年10数校 ▶ 2015年283校  
共学校でも男女別クラスが増加



シンガポールでは、男女別学の卒業生の多くが要職に就いている



男女別学が注目される一方で全体としては共学化傾向



## 「脳の男女差」がもたらす学習効果の違い

近年、海外では「脳の男女差」に関する研究が増えており、マイケル・グリーン氏<sup>8</sup>は「脳の男女差」がもたらす学習効果の違いを発表しています。彼の研究は男女別学を推し進める一因となったと言われているようです。

※アメリカの作家・社会哲学者。複数の大学で教鞭をとることで、本を30冊以上執筆し、ニューヨークタイムズのベストセラーにも選ばれている。

## 「脳の男女差」による傾向（一部抜粋）

- 男子は抽象性を好み、女子は具体性を好む
- 男子は記号・符号、女子は言語の使用を好む
- 男子のほうが飽きっぽく授業中により頻繁に気分転換が必要であるのに対して、女子は忍耐強く話を聞くことができる
- 高学年になるにつれ、男子は女子より抽象度の高い文章や図、グラフにひかれる
- グループ学習の際、男子は統率のとれた組織づくりを好みのに対して、女子は緩やかなつながりのあるグループを好み

個人差によるところも大きいでしょうが、先天的に脳に違いがある男女が別学で学習することは効果的な学習につながると言えるようです。

視聴覚教材で五感を使いながら英語を学ぶ  
清泉女子学院中学校高等学校



興味・関心を存分に深められる環境  
海城中学高等学校



野外活動で深まる絆  
佼成学園中学校・高等学校

気の合う仲間と「好き」を極める部活動  
東京都市大学付属中学校・高等学校